

## 私立上位中堅校の入試分析

### 各校の応募状況

#### ① 私立上位中堅校 1

明大中野は最終応募者数が992人となり約80人の減で留まっています。実質倍率も3.24倍から3.12倍へと若干下がっただけでした。合格最低点は174/300点から165/300点になっています。本郷は、最終応募者数は284人で前年度より約30人減っていますが、合格者数を絞ったために実質倍率は前年度並みの2.53倍となりました。合格最低点は159/300点から164/300点になっています。足立学園は、中間応募の時点では応募減となっていますが、最終応募者数と比較するとむしろ前年度より増えています。1、2回を合わせた最終応募者数は普通科が351人、文理科が403人、全体で約100人増となりました。実質倍率もアップしており新校舎の効果があつたと思われま

す。東海大高輪台は、応募者が減少傾向となっています。中間応募の時点では85人の減とでていますが、最終応募者は321人で約40人の減で留まりました。実質倍率は1.39倍から1.28倍へとダウンしやや緩やかな入試となりました。青稜は前年度並みとなっていますが、最終応募者数を比較すると、H20年度は1,016人で約160人の減となりました。しかし合格者を絞ったため実質倍率は1.17倍から1.20倍へとむしろアップしています。合格最低点は151/300点から141/300点へ10点下がりました。

東京農業大第一は、中学生の内部進学が始まるため高校募集が70人の減。難関進学と進学での募集を取りやめ普通科として募集する形態に変更しました。第二志望者の優遇制度のハードルが若干上がったことも影響してか、最終的な応募者数は601人でやはり約400人の減となっています。日本大学桜丘は最終応募者数が437人になりほぼ前年度並みとなりました。合格者を多く出したため、実質倍率は1.97倍から1.67倍に下がっていますが、合格最低点は156/300点と前年度と同じです。

國學院は最終応募者数が1,143人で約100人の減となりました。しかし、合格者を絞ったため実質倍率は前年度並みとなっています。國學院久我山は推薦入試の形態が変わり、推薦応募者が859人から298人へと大幅に減りました。一般入試は下記の表に男女合わせて約80人減となっていますが、最終的には約40人の減で留まっています。専修大附属は、最終的には前年度並みの応募者となりました。しかし、併願者が増加したためか合格者を増やしたため実質倍率は男子2.26倍から1.40倍へ、女子1.54倍から1.24倍へと下がりました。合格最低点は193/300点で前年度と変わっていません。

日本大学第二は減。日本大学鶴ヶ丘の特進に流れたようです。その日本大学鶴ヶ丘は制服のモデルチェンジやHPのリニューアル、積極的な広報活動などにより応募者は大幅に増えました。普通コースの一般入試は最終的に約200人の増となっています。実質倍率も1.25倍から2.39倍へと上がり、合格最低点も157/300点から184/300点へと上がっています。特進も一般入試で約100人増となりました。実質倍率は1.05倍から1.12倍へ。合格最低点は1回目183/300点から191/300点になっています。

工学院大学附属は最終的にはほぼ前年度並みの応募者数となりました。募集規模の違いから一般の1回目入試(2/10)より2回目入試(2/12)の利用者が多くなります。合格最低点は1回目172/300点、2回目180/300点ですが、実質倍率は2回目の方が低くなっています。今年度は女子の内申基準を下げて入りやすくしたため若干女子の入学生が増えたようです。帝京大学の推薦入試は併願可能なため募集定員に比べて応募者が多い(H19年度は定員25人に271人応募)のですが、今年度はさらに

増え、定員 30 人に 571 人の応募がありました。一般入試は定員を 50 人から 30 人に減らしたのにも関わらず、推薦入試の影響か、最終的に約 170 人の応募増となりました。実質倍率も 1.13 倍から 1.61 倍に上がりやや狭き門となっています。

学校	学科	性別	20年度			19年度				増減
			定員	応募	倍率	定員	応募	倍率	最終	
日大豊山	普通	男	120	215	1.79	120	217	1.81	253	△ 2
明治大学附属中野本郷	普通	男	126	704	5.59	126	820	6.51	1068	△ 116
足立学園	普通	男	60	189	3.15	60	188	3.13	310	1
	文理2/10	男	50	188	3.76	50	224	4.48	299	△ 36
	文理2/12	男	20	42	2.10	20	51	2.55	71	△ 9
	普通2/10	男	35	138	3.94	35	155	4.43	215	△ 17
	普通2/12	男	10	43	4.30	10	46	4.60	77	△ 3
瀧野川女子	特進選抜	女	25	19	0.76	25	16	0.64	16	3
	特進	女	40	20	0.50	40	16	0.40	16	4
	進学	女	70	40	0.57	70	50	0.71	50	△ 10
江戸川女子	Ⅱ類	女	40	44	1.10	45	32	0.71	32	12
東海大高輪台	普通	共	210	246	1.17	210	331	1.58	365	△ 85
青稜	普通	共	130	470	3.62	130	466	3.58	1,180	4
東京農大第一	普通	共	170	445	2.62	-	-	-	-	△ 471
	難関進学	共	-	-	-	50	202	4.04	232	
	進学	共	-	-	-	220	714	3.25	816	
日本大学桜丘	普通	共	220	354	1.61	220	395	1.80	451	△ 41
國學院	普通2/10	共	350	796	2.27	350	867	2.48	1,246	△ 71
國學院久我山	普通	男	40	202	5.05	40	268	6.70	343	△ 66
		女	35	88	2.51	35	98	2.80	135	△ 10
専修大学附属	普通	男	130	226	1.74	130	231	1.78	289	△ 5
		女	70	159	2.27	70	136	1.94	198	23
日本大学第二	普通	男	50	164	3.28	50	211	4.22	264	△ 47
		女	50	118	2.36	50	165	3.30	222	△ 47
日本大学鶴ヶ丘	普通	共	170	357	2.10	170	200	1.18	232	157
	特進2/10	共	30	152	5.07	30	79	2.63	159	73
工学院大学附属	文理特進	共	20	10	0.50	20	10	0.50	16	0
	普通2/10	共	38	65	1.71	38	91	2.39	106	△ 26
	普通2/12	共	60	295	4.92	60	313	5.22	372	△ 18
帝京大学	普通	共	30	206	6.87	50	81	1.62	128	125
帝京八王子	文理	共	25	53	2.12	25	102	4.08	154	△ 49
	医療特進	共	5	0	0.00	5	5	1.00	11	△ 5
明大中野八王子	普通	共	60	622	10.37	60	479	7.98	494	143
成蹊	普通	共	80	246	3.08	80	345	4.31	369	△ 99
法政大学	普通	共	73	577	7.90	73	573	7.85	799	4
桜美林	普通	共	80	174	2.18	95	151	1.59	387	23
日本大学第三	普通2/11	男	60	296	4.93	60	383	6.38	448	△ 87
	普通2/11	女	30	236	7.87	30	328	10.93	385	△ 92
東京電機大学	普通2/10	共	50	228	4.56	60	206	3.43	289	22
	普通2/13	共	16	156	9.75	15	153	10.20	215	3
錦城	普通	共	220	1,284	5.84	220	1,204	5.47	1,461	80
明治学院東村山	普通	共	80	226	2.83	110	292	2.65	330	△ 66
拓殖大学第一	普通	共	200	1,513	7.57	200	1,566	7.83	1,669	△ 53

明治大学明治の多摩地区への移転が明大中野八王子にも影響を与えたようで、一般入試の応募者は最終で 648 人と前年度より約 150 人の増。合格者を絞ったため実質倍率は 4.45 倍から 7.56 倍へと大幅にアップ。合格最低点も 195/300 点から 215/300 点に上がりました。成蹊は最終応募者数が 288 人となり前年度より約 80 人の減。実質倍率も 1.89 倍から 1.60 倍へとやや下がりました。

法政大学の最終応募者数は771人でほぼ前年度並みを確保しました。一般入試に評定点による加算制度を復活させたこともあってか、前年度の厳しい入試が敬遠されることもなく、実質倍率も4.80倍で前年度同様の狭き門となっています。

桜美林は一般入試の定員を95人から80人に減らしましたが、女子の併願優遇制度の基準値を緩和したためか女子の応募者は約30人の増となり、男女合わせると約50人多い応募者となりました。一方で日本大学第三は男女とも応募者減。明大中野八王子に一部流れたものと見込まれます。とはいえ、合格者を男女とも絞ったために2/11の実質倍率は男子1.13倍から1.18倍へ、女子1.07倍から1.15倍へと若干上がっています。

東京電機大学は定員を若干減らしましたが影響はほとんど無く前年度並みの入試となっています。

錦城は普通、特進ともに応募者増。合格者も絞ったため実質倍率が普通1.03倍から1.33倍へ、特進が1.51倍から1.68倍へと上がりましたが、合格最低点は普通180/300点、特進210/300点と前年度と変わっていません。明治学院東村山の最終応募者数は315人まで伸びたので結果としてはほぼ前年度並みの応募状況となりました。ただし、合格者を絞ったために実質倍率は1.63倍から2.24倍にアップ、厳しい入試になりました。拓殖大学第一は最終応募者数が1,676人でほぼ前年度並みの応募状況となりました。実質倍率も1.60倍（前年度1.65倍）、合格最低点も168/300点（同173/300点）でほとんど変わっていません。

## ② 私立上位中堅校2

このほか、今年度入試で要項等に変更があった学校を中心に入試状況を見ていきます。

男子の基準をアップした錦城学園は、推薦ABで男子の応募者が約200人減少しました。しかし、一般入試の方では女子の応募者が約80人増えました。合格者も増やしたため女子の実質倍率は1.15倍から1.06倍になりやや緩やかな入試になりました。

ICを停止、文理のB推を廃止と定員減などの変更を行った東洋は、予想通り文理の応募者は激減し落ち着いた入試になりましたが、特進は相変わらず1,000人規模の入試となっています。普通コースを進学コースに名称変更した朋優学院は特進と進学の推薦基準をアップしたため推薦の応募者は若干減りましたが進学コースは定員数を確保しています。一般入試は基準を据え置いたこともあり、特進約50人、進学は約200人の応募増となりました。ただ両コースとも合格者を増やしたために実質倍率は、特進1.74倍から1.37倍、進学1.18倍から1.16倍へと下がっています。合格最低点は前年度と同じ特進180/300点、進学160/300点だったのでほぼ前年度並みの入試であったといえるでしょう。

H21年度に共学化し校名を「目白研心」と変更する目白学園は、一般入試で約50人の応募増となりました。学校改革を進めている下北沢成徳は今年度も応募者を増やし（推薦で約60人、一般で約70人の増）、2回目、3回目はやや厳しい入試になりました。特進コースは学力レベルも上がっています。アドバンスクラスを新設した駒込は推薦の応募者が合計で836人に達し、前年度より約200人の増となりました。アドバンスと特進希望者が進学希望者を上回り全体的に受検者の層がレベルアップしたようです。

普通科を新設し、校名変更した日工大駒場は普通科に推薦約100人、一般約340人の応募者が集まりました。既存の学科もほぼ前年度並みの応募者が集まりましたので改編は成功であったといえるでしょう。ゴルフで全国に知られた杉並学院は一般入試の応募者が約230人増となりました。応募者中の特進志望者の割合が約5割になり、合格者は初めて文理の数を超え学力レベルもアップしています。学科改編した八王子実践も応募増となりました。特進コースの応募者は少なめでしたが、文理（595

人), 普通 (1,036 人) は人気を集め合わせて前年度より約 400 人増えました。全コースB推薦をフリー受検にした**八王子**は推薦にシフト。文理特進の応募者は約 340 人の減となったものの, 文理進学は 579 人, 文理普通は 243 人の応募がありました。ただし得点だけでの入試のため狭き門となっています。